

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

中田しらゆり地域は、古くから地域活動が活発な地域です。長後街道の沿線は平成11年の市営地下鉄開通と長後街道の拡張工事により都心への通勤圏となり、子育て世代など若い新住民が増加しています。それにあわせて子育て支援の需要が増加し、また新住民が町内会をはじめとした地域組織にいかにもスムーズに溶け込むことが出来るかが課題となっています。一方で葛野地区周辺やしらゆり地区など幹線道路から遠い地域は、高齢化が進んでいます。特にしらゆり地域は団地を除いて泉区で一番高齢化が進んでおり、また坂が多く閉じこもりやすい地形ということもあり、介護予防や支援が必要な高齢者の早期発見が課題です。

2020年2月以降の新型コロナウイルス流行により地域活動の多くが自粛となり、地域活動が停滞していましたが、昨年度は地域内で認知症カフェが2か所立ち上がるなど新しい動きが見られました。また、泉区生活支援課と協働した取り組みや、戸塚高等学校定時制との関りが始まりました。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	泉区生活支援課や戸塚高等学校定時制等、地域の関係機関と共同して、多様な年代、生活課題に対応する取り組みを事業として実施します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	地域の認知症理解を深まる取り組みから一歩進め、認知症になっても住みやすい街づくりを目指します。（チームオレンジ事業）
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	新型コロナウイルスの感染対策として三密を避けた事業（屋外での活動）やICT（ZOOM等インターネット）を活用した事業を進めていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ケアプラザ全職員を対象とした研修を年3回実施します。その内1回については人権研修を行います。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	薬局、商店、公共交通機関等、高齢者と関わりが深い機関にあらためて包括支援センターの周知を図るとともに、必要時連携が取れるよう、関係性の構築を図ります。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

本年度も自主事業や貸館事業は新型コロナウイルス流行の影響を大きく受けました。従来から活動している地域活動の終了や規模縮小も続いています。一方で戸塚高校定時制への居場所提供や障害者就労支援施設との連携、子ども食堂の立ち上げ支援など新しい活動も始まっています。

自主事業では、昨年度に引き続き屋外で行う事業とICTを活用した事業を推進しました。これまでの事業に加え屋外事業では「カプサイシンクラブ」を開催、ICTを活用した事業としては「ZOOMでつながるルーム」を開始しています。

チームオレンジ事業として地域で活動する認知症カフェ、ボランティア、民生委員、地域サロンなど認知症の方と日頃関りが深い方々に対して認知症VR体験会の実施や、認知症世界の歩き方ワークショップをステップアップ研修として行い、認知症当事者の理解を深めることができました。

区からのコメント

・生活支援体制整備事業では、泉区アクションプランの着実な推進のため、区内生活支援コーディネーターが一丸となって取組を進めていただきました。ケアプラザエリアでのアクションプラン通信ありがとうございました。今後もケアプラザエリアでのインフォーマルの情報等の発信をお願いいたします。

・若年層を対象とした取組として、戸塚高校定時制と連携し、学生に登校前の居場所やボランティアの機会を提供するなど、地域の特性を活かした取組を行っています。また、子ども居場所連絡会に参加して支援者と課題共有を行うなど、身近な相談機関、地域との橋渡し役としてきめ細かい対応を行っていただいています。引き続き、地域の課題解決に向けた取組をお願いします。

・チームオレンジ事業では、VR研修や認知症世界の歩き方ワークショップの開催、地域のキャラバンメイトと連携した小学校での認知症サポーター養成講座など、地域で正しい認知症理解を推進する取組が実施できました。来年度も地域のニーズを捉えた事業の実施を期待しています。